第１学年分科会　　**提案発表**

勝浦町横瀬小学校　田村　理恵
松村　洋子

１　はじめに

本学級の児童は，明るく素直で，図画工作科においても意欲的に取り組んでいる。しかし，何をつくったらよいか思いつかなかったり,出来上がった作品に自信がもてなかったりする児童も見られる。そこで，表現内容・表現材料・表現方法との「であい」を大切にしながら，児童のイメージを広げ，創作意欲を高めたり，自分や友達の表現のよさを認め合うことで自信をもたせたりしたいと考えた。

さらに，近年勝浦町ではたくさんの恐竜の化石が発掘されている。約１億３千万年前，自分たちの住む勝浦町の地に恐竜が生きていたことは，本校の児童にとって，とても誇らしいことである。「かつうらざうるす」に思いを巡らせ，想像力豊かに楽しくつくることは，地域のよさを児童が知り，より地域を好きになるきっかけにもなると考え，この題材を設定した。

２　指導の実際

（１）　題材１　『たまごを　みつけたよ』〈Ａ表現（２）立体に表す・Ｂ鑑賞〉

①目標　ア　自分だけの恐竜の卵をつくる活動を楽しむことができる。
　　イ　つくりたい卵を想像し，形や色，大きさ，模様などを考えることができる。
　　ウ　自分のつくりたい卵のイメージを基に，表し方を工夫してつくることができる。
　　エ　自分や友達の作品を見て，よさや面白さを感じ取ることができる。

②実践内容

第１次　自分だけの恐竜の卵を想像して，卵をつくる。　・・・２時間
第２次　折り紙や身の回りの材料を使って，卵に模様や飾りをつける。　・・・２時間
第３次　自分や友達の作品を見て，よさや面白さを伝え合う。　・・・１時間

（２）　題材２　『かつうらざうるすが　うまれたよ』〈Ａ表現（２）立体に表す・Ｂ鑑賞〉

①目標　ア　身の回りにある材料に興味や関心をもち，紙粘土の感触を味わいながら作品づくりを楽しむことができる。
　　イ　卵から生まれてくる恐竜の姿を想像し，形や色，模様などを考えることができる。
　　ウ　自分のつくりたい恐竜のイメージ図を基に,表し方を工夫してつくることができる。
　　エ　自分や友達の作品を見て，よさや面白さを感じ取ることができる。

②実践内容

第１次　自分がつくった卵から生まれる恐竜を想像して，イメージ図をかく。　・・・１時間
第２次　紙粘土や身の回りの材料を使って，自分だけの恐竜をつくる。　・・・１時間
第３次　絵の具で恐竜に色をつける。　・・・２時間
第４次　身の回りの材料を使って，恐竜の模様や細かな部分などを仕上げる。　・・・１時間
第５次　自分や友達の作品を見て，よさや面白さを伝え合う。　・・・１時間

３　結果と考察

（１）「であい」を大切にした授業づくり

①表現内容との「であい」

学級に恐竜コーナーを設け，恐竜に関する絵本や図鑑，新聞の記事を掲示し，いつでも見られるような環境をつくった。さらに読み聞かせも行うことで，児童の興味や関心を高め，つくりたいもののイメージを広げることができた。また，「自分だけの恐竜の卵」「自分だけの恐

竜」をつくるという目標を示したことで，児童の心が固定観念から解放され，自由な発想でのびのびと主体的に製作活動に取り組むことができた。

②表現材料との「であい」

授業の導入で，教師が紙粘土を練って見せると，児童から歓声が上がり，初めて紙粘土にであった児童は，驚きながらもその軽くて柔らかい感触を楽しみ，やってみたい，つくりたいという創作意欲が高まっていった。また，児童が用意した材料の他にも，教師が用意した様々な材質の材料を児童から見えやすく取りやすい位置に並べたことにより，児童は主体的に自分のイメージに合った材料を考えて選んだり，材料から新たな工夫を考えたりすることができた。さらに，自分の箱に使いたい材料を入れておくようにしたことで，材料を選ぶワクワク感を感じさせたり，自分だけの恐竜をつくりたいという創作意欲をかきたてたりすることができた。

③表現方法との「であい」

参考作品をいくつか見せた後，写真で示した手順カードを黒板に掲示し，活動内容を明確に示すようにした。このことにより，児童は完成までの見通しをもって活動することができた。また，今回の題材では，初めて絵の具を使う活動も取り入れた。初めに混色の仕方を図で示したことにより，塗りたい色を決め，混ぜる量を工夫しながら自分だけの色をつくって着色することができた。

（2）「つたえあい」を大切にした授業づくり

机をグループにして，友達のつくる様子が自然に目に入るように配慮した。製作中に困っていることをつぶやく友達に対して自分なりのヒントやアドバイスを伝える児童，友達の作品を参考にしてさらにつくりかえている児童もいて，そこには対話的な学びが生まれていた。また，活動中に実物投影機で児童の作品を映し出し，自分の頑張っているところや工夫しているところをアピールすることは，児童の主体的で深い学びにつながった。

（3）「つくりだす喜び」を味わう授業づくり

①児童の思いが膨らむ導入

製作活動に消極的だった児童や苦手意識をもっていた児童が，絵本の読み聞かせの段階から興味をもち，つくりたいという意欲をもつようになった。製作中には，「毎日図工があったらいいな」とつくりだすことに喜びを感じ，生き生きと活動している姿が見られた。児童に楽しそう，つくりたいと思わせる導入の工夫をすることの大切さを再認識した。

②児童の思いを表現できるようにするための手立て

恐竜を立たせたいけど立たないと悩む児童が数名いた。自分で試行錯誤しながら立たせることに成功した児童，グループの友達の作品を参考にしながら立たせることができた児童がいた一方で，立たずに困っていた児童には芯材の使い方を伝え支援した。しかし，芯材を教室の後方に置いていたため一人一人の支援に時間がかかった。各グループに芯材を用意しておけば，グループ活動での伝え合いや学び合いがより深められたと考える。

4　おわりに

最後までワクワクした気持ちを持続したまま活動できるか心配していたが，児童の「図工大好き」「図工楽しい」という気持ちがいっぱい詰まった，個性溢れる作品が出来上がった。児童のつくりたい，やってみたいという創作意欲をかきたて，それを維持することが大切であるということを実感できた実践となった。完成した作品は，学校の玄関ホールや県立博物館，町立図書館など様々な場所で展示し，町内外の方々に見てもらうこともできた。自分の思いをしっかりと作品で表現し，たくさんの人に褒めてもらえたことで，充実感や自己肯定感が高まり，さらに，地域の方々とのふれあいの中で自分たちの町のよさを再発見することもできた実り多い活動となった。これからも，児童一人一人の思いを大切にしながら授業づくりに努めたい。